

播磨歴史研究会 8月講演会

8月講演会のテーマは「播磨の歴史の謎 背面十字架地蔵」です。

播磨地域は戦国時代、キリシタン王国でしたが、その後の禁教令で多くの信徒は潜伏しました。播磨地域南部では織部燈籠を仮の礼拝所にして信仰を守っていた様です。

しかし、加西市は特別で背面に十字架が浮き彫りにされた地蔵が140体以上残っています。これを調査すると姫路で6体、神崎郡で3体、西脇でも3体見つかりましたが他の地域では皆無です。この背面十字架地蔵が見つかったら村ごとお咎めを受けるのになぜ加西市にはこの様なものが数多く残っているのでしょうか？これらがどこにあるのか？また、どの様な意味を持つのかを徹底調査、隠された真実をご説明致します。

今回前半は野上町文化財保存会から副会長の高見智氏を迎え、加西の背面十字架地蔵をご紹介します。後半はこの様な物が置かれることになった背景をご説明致します。他にも、神社に伝えられるキリスト教の祭りや儀式等、隠された秘密を公開致します。



8月講演会は、かこむ講座研修室90名様限定、WEB講演会はZoomで200名様限定となります。お申し込みはお早めをお願い致します。

加古川市協働のまちづくり推進事業

日時：8月20日（土）午後2時～4時

場所：東播磨生活創造センター「かこむ」講座研修室と オンライン



講演会参加費は1回500円、資料付き
←WEBサイト<https://www.suzu.com/harima/>
最新情報は、FaceBook 播磨歴史研究会→

